

シラバス (申請用)

区分	動脈血液ガス分析関連
担当指導者	山根 毅郎、橋本 壮志、鈴木 和子、木村 百穂、原 美紗子、石山 論、辰野 有沙、須藤 和樹、實井 一史、橋本 信也、金光 史恵
時間	13
学習概要	<p>「動脈血液ガス分析関連」で共通して学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動脈穿刺法に関する局所解剖 2. 動脈穿刺法に関するフィジカルアセスメント 3. 超音波検査による動脈と静脈の見分け方 4. 動脈血採取が必要となる検査 5. 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態 <p>特定行為「直接動脈穿刺法による採血」で学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直接動脈穿刺法による採血の目的 2. 直接動脈穿刺法による採血の適応と禁忌 3. 穿刺部位と穿刺に伴うリスク (有害事象とその対策等) 4. 患者に適した穿刺部位の選択 5. 直接動脈穿刺法による採血の手技 <p>特定行為「橈骨動脈ラインの確保」で学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動脈ラインの確保の目的 2. 動脈ラインの確保の適応と禁忌 3. 穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク (有害事象とその対策等) 4. 患者に適した穿刺及び留置部位の選択 5. 橈骨動脈ラインの確保の手技
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①動脈血液ガス分析関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける ②医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「直接動脈穿刺法による採血」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる ③医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「橈骨動脈ラインの確保」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる ④手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う
研修方法/ 評価方法	<p>講義 (放送授業・面接授業) : e-ラーニングの受講/確認テスト、添削指導</p> <p>講義 (手技動画) (放送授業・面接授業) : 手技動画の視聴/手技練習の観察評価</p> <p>OSCE (実技試験) : シミュレーターを用いた実技試験の実施/評価表 (DOPS) を用いた観察評価</p> <p>実習 (面接授業) : ①手順書、②患者に対する実技</p> <p>①手順書案の作成、特定行為実施後の再評価/医師による評価</p> <p>②特定行為の適応・病状の範囲・行為内容の判断・実施・報告、レポート提出/評価表 (DOPS) を用いた観察評価、レポートへのフィードバック</p> <p>※経験すべき症例数は、行為の難度に応じて5症例とする</p> <p>試験 (筆記試験) : 修了試験の実施 (教室に集めしPC端末もしくは試験用紙を用いて行う)</p>
備考	<p>研修時間には、講義、評価を含みます</p> <p>講義時間には、動画再生時間、動画中の課題の時間、確認テスト (テスト受講、採点、解答確認) の時間を含みます。自学の時間は含まれません</p> <p>患者に対する実技を行う実習の前にシミュレーションによる学習 (手技練習) および実技試験 (OSCE) を行います</p>

学習内容	タイトル	講義	実習	OSCE	評価	合計	学習概要
「動脈血液ガス分析関連」で共通して学ぶべき事項							
講義	動脈血液ガス分析とは？	0.5				4.5	1～5
	動脈穿刺法に関する局所解剖と生理とフィジカルアセスメント	1					1, 2
	超音波検査による動脈と静脈の見分け方	0.5					3
	動脈血採取が必要となる状況、検査	0.5					4
	動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態	1					5
	動脈血液ガス分析の評価	1					1～5
試験	動脈血液ガス分析関連（共通） 修了試験				0.5	0.5	
		4.5	0	0	0.5	5	

特定行為「直接動脈穿刺法による採血」で学ぶべき事項							
講義	直接動脈穿刺法による採血の目的、適応と禁忌	0.5				2	1, 2
	穿刺部位と穿刺に伴うリスク	0.5					3
	患者に適した穿刺部位の選択	0.5					4
	直接動脈穿刺法による採血の手技	0.5					5
講義 (手技動画)	直接動脈穿刺法による採血の手技	1.5	*			1.5	5
OSCE	直接動脈穿刺法による採血			*	*	0	1～5
実習	直接動脈穿刺法による採血（手順書の作成）		†			0	1～5
	直接動脈穿刺法による採血（患者に対する実技）		5症例		‡		1～5
	直接動脈穿刺法による採血（手順書の見直し）		†				1～5
試験	直接動脈穿刺法による採血 修了試験				0.5	0.5	
		3.5	0	0	0.5	4	

- * : 手技動画を視聴後、シミュレーターなどを利用して手技練習を行う
- ‡ : 患者に対する実技の前にOSCE（10～15分程度の評価を含む）を行う
- † : 臨床経験や施設に応じて手順書案の作成、見直しを行う
- ‡ : 患者に対する実技では、1症例ごとに10～15分程度の観察評価を行う

特定行為「橈骨動脈ラインの確保」で学ぶべき事項							
講義	動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌	0.5				2	1, 2
	穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク	0.5					3
	患者に適した穿刺及び留置部位の選択	0.5					4
	橈骨動脈ラインの確保の手技	0.5					5
講義 (手技動画)	橈骨動脈ラインの確保の手技	1.5	*			1.5	5
OSCE	橈骨動脈ラインの確保			*	*	0	1～5
実習	橈骨動脈ラインの確保（手順書の作成）		†			0	1～5
	橈骨動脈ラインの確保（患者に対する実技）		5症例		‡		1～5
	橈骨動脈ラインの確保（手順書の見直し）		†				1～5
試験	橈骨動脈ラインの確保 修了試験				0.5	0.5	
		3.5	0	0	0.5	4	

- * : 手技動画を視聴後、シミュレーターなどを利用して手技練習を行う
- ‡ : 患者に対する実技の前にOSCE（10～15分程度の評価を含む）を行う
- † : 臨床経験や施設に応じて手順書案の作成、見直しを行う
- ‡ : 患者に対する実技では、1症例ごとに10～15分程度の観察評価を行う